

虹の女神

虹はアイヌ語ではラヨチ（ラra-下にヨ(y)o-沢山あるチci-靈魂）です。虹は空に見えるものなのに「下」というのはどう



佐賀 彩美 (さが あやみ)

一般社団法人北海道開発技術センター
調査研究部研究員

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モントレー国際大学院（現ミドルベリー国際大学院モントレー校）通訳翻訳学科修士課程修了。通訳案内士。

という訳かという、神々がいる天上界から見ると下方にあり、地上から見ても積乱雲のずっと下に現れるからです。現在のように科学的に気象状況を説明できず、また自然や自然現象に全面的に依存していたアイヌの人々の暮らしでは、気象状況は生活を左右するものとして大変重要でした。人々は自然を注意深く観察していて、異変が起きるとそれは何かの知らせであると思ったのです。「下に」という表現には、鋭い観察眼が感じられます。

虹は雨が降り終わった後に、地表から上昇する水滴に太陽の光が当たることで水滴がプリズムの役割を果たし、その屈折や反射によって出現することは、今日では常識となっています。水滴が大きいと虹の色は七色に、小さいと赤、黄、青、更に小さいと、赤と黄になって見えます。また、普通、虹は一本ですが、峡谷の滝の付近などでは、三重、四重となり、虹の間は薄いすみれ色で魅了される美しさです。虹の仕組みを知らなかった人々は、様々な姿で現れる虹を異様であると感じると同時に、^{そうごん}荘厳な現象として受けとめていました。

アイヌの人々にとって、虹の神様は一般的には高齢の女性で、しかも孤独な女であり、そのためか、少し心もねじれて、人々には良いことをしないとされています。例えば、虹の根本に当る地域や村には不幸な出来事が起きるといいます。アイヌの物語の中では、英雄神が虹を退治しようとして追いかけると、虹は足の早い老婆に姿を変えて逃げ去り、なおも追いかけて、刀

を抜いて切ろうとすると、老婆は七色の火の魂に変身し、パッと消えてしまいました。さらに、周辺には^{りん}燐の燃えたような異臭が漂い始めたので、英雄神は身の危険を感じて引き返したということ

です。ただ、虹も神様ですから、美しい姿で注意を惹き、凶事の発生を地域の人々に知らせているとも言えないこともあります。一方、人々の祈りは虹になって相手に届くという考えもあります。アイヌ民族の宇宙観では、宇宙は無限ではなく、ドーム状の天井があり、虹となった祈りは高く昇ってゆくと行き止まりで反射、弧を描いて下降し相手に届くのだそうです。七色に輝く虹には、怖い女神のお話よりも、こちらのほうが^{ふさわ}相応しい気がします。

虹の形も半月形のものだけでなく、その半分、あるいは一部分、条件によっては縦長の虹もありますが、その形の由来には次のような面白い物語も残されています。昔々、虹の夫婦神が言い争いをし、どちらも主張を譲ろうとしなかったことから、おしっこの飛ばし合いをして事の決着をはかることになりました。そうして二人並んで放尿したところ、男神は^{きれい}綺麗な弧を描きましたが、女神の方は途中で切れたのでした。この故事にならって弧を描く虹をオッカイラヨチ男虹：okay-男性 rayoci-虹、途切れている虹をメノコラヨチ女虹：menoko-女性 rayoci-虹と言いつけています。

雨上がりの虹を見たとき、恐ろしくもあり、ユーラスでもあるアイヌの物語に思いを馳せるのも楽しいのではないのでしょうか。

*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として（一社）北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長
アイヌ学全般（精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療（整体ほか）等）を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査（北海道教育委員会）に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する傍ら、國學院大學北海道短期大学部（滝川市）で開催のペカンベ祭で伝統料理を提供している。主な著書：『アイヌの霊の世界』（小学館、1982年）、『アイヌ、神々と生きる人々』（福武書店、1985年）、『アイヌ学の夜明け』（梅原猛氏との共編、小学館、1990年）、『知里真志保フィールドノート(6),(7)』（北海道教育委員会、2007、2008年）、『平成20～29年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1～9』（北海道教育委員会、2008～2017年）等。